

てんぐとう や う じけん 天狗党の焼き討ち事件



天狗党のことが書かれている碑（太平山の謙信平）

むかし とちぎ まちじゅう も
昔、栃木で町中が燃える大
かじ
きな火事があったそうです。江戸
じだい お
時代も終わりのころで、尊王
じょういうんどう
攘夷運動が高まっていました。
そのうじょうい
この尊王攘夷の考えをもった
ひとびと み とてんぐとう よ
人々の中に、「水戸天狗党」と呼
ばれるしゅうだん
集団がいました。

1864（^{がんじがん}元治元）年4月5日、

じんばおり き の ぶし うつのみや き じょうい じっこう
陣羽織を着て馬に乗った武士たちが宇都宮に来て、攘夷を実行する
ためにきょうりよく もと うつのみやはん きょうりよく ことわ
ために協力を求めました。しかし、宇都宮藩では協力を断り
ました。ことわ かれ
断られた彼らは、さっそくにっこう む
さっそく日光に向かいました。彼らこ
ふじた こしろう ひき み とてんぐとう いっこう
そ藤田小四郎が率いてきた「水戸天狗党」の一行だったのです。

てんぐとう やく
天狗党の約170人は、4月8日から11日までの4日間いまいち
しゅくはく にっこうとうしょうぐう きがん ぜんこく おな かんが ひとびと
宿泊し、日光東照宮で祈願し、全国の同じ考えをもつ人々を
あつ
集めようとしてしました。その後、ご ぶそう かれ
その後、武装した彼らは4月14日、にっこうほうめん
かられいへいしかいどう とちぎ はい
から例幣使街道を通過して栃木町へ入ってきました。てんぐとう
おおひらさん のぼ
太平山に登り40日ほどとどまり、かくち なかま おく じょうい
各地に仲間を送り、攘夷の

きょうりよく しきん なかま ほしゅう てんぐとう
協 力 のための資金と仲間を募集しました。天狗党は、6月1日に
おおひらさん お とちぎ さ とちぎ
太平山を下りて栃木を去っていきましたが、栃木からもたくさん
わか てんぐとう くわ てんぐとう とちぎ さ つくばさん
若い人が天狗党に加わったそうです。天狗党は栃木町を去り、筑波山
むほんたい べつこうどう たなかげんそう いったい
へ向かいましたが、本隊と別行動をとっていた田中愿蔵の一隊が、
とちぎ ひ かえ かれ とちぎ ふきん
栃木町に引き返してきました。彼らは栃木町や付近の村にたくさん
しきん ようきゅう とちぎじんや あしかがはん やくしょ やくにん
の資金を要求したのです。栃木陣屋（足利藩の役所）の役人たち
あしかがほんちよう し ふきあげはん みぶはん
は、このことを足利の本庁に知らせるとともに、吹上藩や壬生藩
たす もと むり ようきゅう たい げんそう じんや
に助けを求めました。もともと無理な要求に対し、愿蔵と陣屋の
やくにん はなしあ やくにん じゅんび てっぽう
役人との話し合いもうまくいかず、役人たちは「準備していた鉄砲
う と げんそう おこ
で打ち取ろう。」としました。しかし、かえって愿蔵を怒らせてし
げんそう いったい も とちぎ はな
まい愿蔵の一隊は、たいまつを持って栃木の町に火を放ちました。
かじ とちぎ や ころ
この火事で栃木町は237軒も焼かれ、町の人殺されました。こ
とき かじ げんそうかじ いご とちぎ にど かじ
の時の火事を「愿蔵火事」といい、これ以後、栃木町では二度と火事
や
で焼かれないように、家をつくるときは、土蔵づくりにしました。

(「栃木市のあゆみ」 栃木市教育委員会から)